

神社の社(三十二)

裏山

御岳ビジターセンター

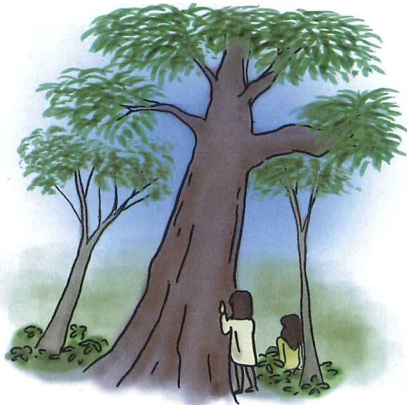
片柳 茂生

私は、神社の裏山にずいといと昔から住んでおります年老いたブナでございます。

私の居ります裏山とは、神社の北から西にかけての鬱蒼とした森、そう、このコーナーのタイトルにもなっている神社の杜のことです。この森だけは、木を伐採したことがないようで、神社神域という意味合いからも「不伐の杜」という呼びかたがピッタリとくる森です。それ故でしょうか、私と同じように大きく、そして年をとっている樹がたくさん居ります。この頃巷では「巨樹」という言葉がよく使われているようですが、私たちにはこの言葉がピッタリと言うところでしょうか。

この森の中で巨樹に相当するものはといますと、針葉樹ではモミとツガ、おおつと忘れてはいけません、スギやヒノキもそうですね、広葉樹ではミズナラ、イヌブナ、トチノ

キなどが居ります。え、あなたは大樹の仲間に入っていないのかって?。いえいえ、自慢ではございませんが、つい先日私の大きなお腹を計ってくれた方がおりました、その方がおっしゃるには、自分からは言いにくいのですが、青梅市の中では私が一番大きなブナのようでした。今までは、高水山のブナが一番だったらしいのですが、ほんの少し私の方が大きかったようでございます。この森の中にも私と同じくらいブナが何本かはいるんですが、以前



計ったところではほんの少し高水山のブナには及ばず、涙を飲んだという話を聞いております。

そんな、私達の居ります裏山は、多くの巨樹に囲まれ、そして時折聞こえてくる神社の太鼓の音が森に響き渡り、巨樹の間からは聳え立つ奥の院が垣間見え、神聖で荘厳な雰囲気を感じ出してあります。ここでは言葉というものが似合いません。杜の中で静かに佇んでいることがこんなに心地よいものなのか、この杜にいると癒される、そんな感じがする杜でございます。

ところで、この杜の中に今度散策路ができるという噂を耳にしました。何十年いや何百年という長い年月がこの森を育み、今まで一般の人が入ることを拒んできた杜です。もし裏山を訪れることがございましたら、杜の雰囲気を楽しみたいように接して下さいませ幸いです。

では、杜の中でお会いしましょう。

表紙写真 鈴木 新吾

厳冬の大もみじ

春を待ち風雪に耐える木々、厳しい冬の寒さがあるからこそ春のおとずれが、喜びとなるのでしょうか。雪解の爽やかな水が美しい新緑をはびまわります。

あとがき

世界不況と騒がれ、国民は大きな渦の中におります。今だからこそ笑顔を絶やさず楽しい未来を思い描きましょう。あなたが笑顔でいれば周りの皆様もきっと笑顔になることでしょう。神明山講演元の吉田様、ビジターセンター片柳様には、玉稿をありがとうございました。

平成二十一年三月八日発行
〔年二回発行・非売品〕
編集 武蔵御嶽神社

TEL 0496(七) 八五〇〇
FAX 0496(七) 九七四一

http://www.musashitakejinja.jp/
印刷 (株)成和印刷